

ビフェナゼート剤（マイトコーネフロアブル）によるイチゴおよびリンゴのハダニ類の防除

園芸試験場

1 取り上げた理由

ハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすく、既存殺ダニ剤の中には効力が著しく低下しているものも認められている。新系統の薬剤であるマイトコーネフロアブルはこのようなハダニ類に対して防除効果が高く、また受粉昆虫やカブリダニ等天敵類のなどに対して悪影響が極めて少ないことから、参考資料とする。

2 参考資料

1) 薬剤名 ビフェナゼート剤（商品名：マイトコーネフロアブル）

- a 有効成分：ビフェナゼート 20%
- b 製剤（外観）：淡褐色水和性粘稠懸濁液体
- c 毒性：普通物，魚毒性：B類
- d 安全使用基準：収穫前日まで，1回

2) 対象病害虫

- a イチゴ ハダニ類
- b リンゴ ナミハダニ，リンゴハダニ

3) 使用方法

- a 使用時期：イチゴは収穫前日まで，リンゴは収穫7日前まで
- b 使用濃度：イチゴは1,000倍，リンゴはナミハダニが1,000倍～1,500倍，リンゴハダニは1,000倍液
- c 使用方法：散布

3 利活用の留意点

- 1) ボルドー液との混用および14日以内の近接散布は避ける。
- 2) 本剤は既存の薬剤との交差抵抗性がなく，ハダニの全ステージに対して高い殺虫活性を示すが，特に成虫・幼虫に対する効果が高い。
- 3) 本剤は速効性・残効性ともに優れるが，植物体への浸透移行性がないので，葉に薬剤が十分付着するようていねいに散布する。
- 4) ハダニ類の発生初期に散布すると効果的である。
- 5) 同一薬剤の連続散布はハダニ類の抵抗性を増加させるおそれがあるので，年1回の使用とし，他の殺ダニ剤と輪番で使用する。
- 6) ミツバチやマメコバチ等の有用昆虫に影響は少ないが，カイコに対して弱い毒性があるので桑葉にかからないように注意する。
- 7) 天敵類に対する影響が極めて少ないので土着天敵を温存でき，イチゴではチリカブリダニ等の天敵を用いた防除と併用できる。

（問い合わせ先：農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話022-383-8132）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

新規発生病害虫の発生生態の防除技術確立に関する試験（平成10年）

新農薬による病虫害防除法（平成10年）

2) 参考データ

表 - 1 イチゴのナミハダニに対する各種薬剤の防除効果（平成10年）

供試薬剤	希釈倍数	1葉あたりのナミハダニ寄生個体数				薬害
		散布直前	3日後	7日後	14日後	
マイトコネロアブル	1,000	45.4	0.8	7.7	15.1	-
オダノ水和剤	1,000	47.6	21.3	7.3	55.4	-
無散布	-	51.0	109.7	149.4	233.7	

表 - 1 リンゴのナミハダニ，リンゴハダニに対する各種薬剤の防除効果（平成10年）

供試薬剤	希釈倍数	種類	1葉あたりのナミハダニ寄生個体数					防除効率 (32日後)	薬害
			散布直前	4日後	12日後	20日後	32日後		
マイトコネロアブル	1,500	ナミハダニ	10.0	3.5	0.3	0.8	0.8	98	-
		リンゴハダニ	1.7	2.3	0.7	0.3	0	90	
オダノ水和剤	1,000	ナミハダニ	6.2	11.0	3.5	0.3	0.8	71	-
		リンゴハダニ	4.0	4.2	1.0	0.5	0.7	91	
無散布	-	ナミハダニ	6.2	5.7	9.2	2.7	4.0	-	-
		リンゴハダニ	2.2	4.7	1.2	1.8	10.5		

3) 発表論文等

なし

本剤の価格は500mlで4,700円前後

包装単位は500mlボトルの1種類